

東日本大震災による 自然を見つめる眼の物語

里地サイトの調査員の安否状況

①2011年6月



センサーカメラで撮影された
飼い猫にゃんすけ
(宮城県南三陸町)

『自動撮影に猫が写っている!』

←おなじみのイリオモテヤマネコの調査風景かと思いきや、実はこれ、2011年6月に宮城県南三陸町で撮影された写真。

『モニタリングサイト1000』という、自然環境の変化を定点観測する活動(注1)の過程で、津波で行方不明になっていた飼い猫の無事な姿が目撃されたという、明るいニュースでした。

この記事は2011年11月発行の「モニタリングサイト1000里地調査速報」というニュースレターに掲載されたもの。互いに面識はなくても、ともに目的を持って日本中の自然を観察する仲間同士。「全員の無事が確かめられた」という一文を読むと、安堵と同時に震災後の不安だった気持ちもハッキリと蘇ってきます。

(注1)『モニタリングサイト1000』とは、環境省が全国1000カ所程度のモニタリングサイト(観測地点)を設置し、基礎的な環境情報の収集を長期にわたって継続して、日本の自然環境の資的・量的な劣化を早期に把握するための事業です。西表島の祖納地域もサイトのひとつに登録されており、西表島エコツーリズム協会が植物相調査、鳥類調査、イリオモテボタル調査を実施しています。

このたびの東日本大震災で被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。モニ1000里地調査では全国194カ所の調査地があり、多くの方にご協力いただいています。被災地周辺のサイトの方がどうなったのか心配されている方も多いと思いますので、安否状況をお知らせします。

この地震の影響について青森・岩手・宮城・福島の里地サイトの各連絡担当者に確認をとったところ、全員のご無事が確認できました。特に被害の大きかった宮城県南三陸町の「南三陸ふるさと研究会」の方も無事が確認できました。

南三陸町のサイトでは調査員からの申し出もあり、鳥類及び哺乳類調査を継続してくださっています。今年の6月哺乳類調査の写真に津波で行方不明となっていた飼い猫が写り(右写真)、その後再会できたという嬉しい情報もお寄せいただきました。震災に関係する混乱が続いているところもあると思いますので無理のないように調査にご協力いただければ幸いです。

(生物多様性センター発行『モニタリングサイト1000里地調査速報』no.8)



②2013年6月

6月中旬、南三陸町の野という野に、シロツメクサ、マーガレットなどが自生して、こぼれんばかりの花畑になっていました。志津川、清水浜、歌津と山一つ越えるような場所で、震災後に一度は荒野のようになったところに、一様に似たような植生で花畑が広がっていたのに驚きました。この種はどこからどうやってここに来たのでしょうか。



木々は光を求めてまっすぐに育っています。
もう津波直後によく見られた赤茶けた木は見かけなくなりました。
(RQ聞き書きチームブログより)

we support!

RQ
災害教育
センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め
復興支援
「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

JULY
11
2013